

ホームレス支援のため、パリ20区で市民ボランティアが聞き取り調査を実施



2月7日（木）から8日（金）にかけて、パリではホームレスの人々を支援する活動「ニューイ・ドウ・ラ・ソリダリテ（Nuit de la solidarité）」が行われ、総勢2000名のボランティアが参加しました。

「ニューイ・ドウ・ラ・ソリダリテ」

この活動は、社会から排除されている人々の問題（la thématique de la lutte contre l'exclusion）を考えるため、パリ市やボランティア団体が協力して運営しています。

パリの各区において定期的な集会（Rencontre）やディスカッション（débat）のほか、料理アトリエ（atelier culinaire）などが開かれています。

今回で2回目、パリ20区での開催

パリ20区では、とくにホームレス（sans-abriまたはSDF：sans domicile fixe）の支援を目的として約1600名のパリ市民と400名の民間団体の職員が集まりました。

参加者は夜22時頃から翌1時頃にかけて路上に出て、ホームレスの全体数や職業、生活状況の調査を実施しました。

調査はインタビュー形式で行われ、例えば「いつから路上で生活しているのか（Depuis combien de temps la personne est-elle dans la rue?）」、「どんなものを必要としているか（De quoi a t-elle besoin?）」といった質問への回答を集計しました。

パリ市長のアンヌ・イダルゴ（Anne Hidalgo）氏も参加し、主催者への感謝の意をツイッターに投稿しています。

増加するホームレス

第1回の活動が行われた2018年の時点では、ホームレスの数が2952名と計算され、その12%が女性でした。今回の調査結果は2月14日まで未公表ですが、参加した民間団体によると増加していることは確かだといえます。

パリ市内でホームレス向けの住居数は増加しているにもかかわらず、公園や建物、新しい駐車場などの影で暮らす人があとを絶ちません。

拡大する社会調査

ホームレス支援のような社会問題への対応のため、イル＝ド＝フランス（Île-de-France）地域圏の自治体も2月に調査を実施する予定です。

この調査は、「ニューイ・ドゥ・ラ・ソリダリテ」のように市民参加型ではありませんが、社会福祉分野の専門家がホームレスの生活状況を探り、解決策を提案するために行うものです。

執筆あお

オンラインフランス語学校
ENSEMBLE EN FRANÇAIS
アンサンブルアンフランセ

オンラインフランス語学校アンサンブルアンフランセは、プロの講師によるマンツーマンのスカイプレッスンが1回1500円～受講できます。いつでもどこでも手軽に受講できる利便性と生徒一人一人にカスタマイズされた質の高いレッスンが好評です。

